

研究対象者等に通知し、又は公開すべき事項（情報公開用）

申請番号： 20-215

① 試料・情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）

・研究課題名：術前フレイルが心臓デバイス植込み患者の術後身体活動量に与える影響に関する研究

・目的：心臓デバイス治療は不整脈、心臓同期不全に対して行われる治療であり、ペースメーカー、植込み型除細動器（ICD）、両心室ペーシング（CRT, CRT-D）といった種類がある。心臓デバイス植込み患者の術後の身体活動量の低下は、死亡率や合併症の増加に影響していると報告され¹⁾、また、心臓デバイス植込み患者の60%がプレフレイルもしくはフレイルを呈しているとの報告²⁾もある。さらに、フレイルを合併する心臓デバイス植込み患者は、フレイルを合併しない者と比べて再入院、死亡率が高いことが報告されている³⁾。しかし、心臓デバイス植込み患者は術前からフレイル状態であったかどうかは不明であり、また、術前のフレイルの存在が術後の身体活動量にどのような影響を及ぼすかは不明である。今回は入院前のフレイルが術後の身体活動量に影響を及ぼすか調査する。

本研究の意義は術前からのフレイルが術後の身体活動量に影響するのであれば、入院早期から運動療法や生活指導などの指導を積極的に取り入れるための評価の一助になると考えられる

研究期間：2023年3月31日までとする。

対象症例：2019年7月1日～2021年1月31日

② 利用し、又は提供する試料・情報の項目

a) 患者背景因子：年齢、性別、疾患名、合併症、既往歴、心臓超音波検査所見、手術日、手術内容、心肺運動負荷試験、日常診療の情報を電子カルテから収集する。

b) 身体活動量：心臓デバイスに内蔵された活動量計を用いて測定

c) フレイル評価：基本チェックリストを電子カルテから収集する。また、電子カルテに記載されている既往歴および現病歴をもとにmodified Frailty Indexを算出する。

③ 利用する者の範囲

埼玉医科大学国際医療センター リハビリテーションセンター 武田智徳

④ 試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称

埼玉医科大学国際医療センター リハビリテーションセンター 武田智徳